

厚生福祉

時事通信社

104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信社
昭和28年5月30日 第3種郵便物認可
毎週2回火・金曜日発行(但し祝日を除く)
購読料金 税抜月額4,100円
本誌掲載記事・写真などの無断複写・複製・転載を禁じます。
©時事通信社2016
◎誌面内容に関するお問い合わせ(編集部)
kousei-dokusha@jiji.com

目次

特集	メディアドクター 医療報道を検証、取り組み10年	2
解説	ヘルスツーリズム認証試行	5
解説	センター情報を共有、女性医師の復職推進	6
中央省庁ニュース		8
	薬価の毎年改定提言 民間議員「全品を対象」/2カ月連続で最多更新 9月の生活保護受給世帯 ほか	
進言(石川県)		9
ニュース	地域猫の情報アプリを導入	10
ニュース	排せつケアで実証実験	11
ニュース	認知症介護で交流の場 東大和ケアラズカフェ	12
インタビュールーム(高知県)		13
特集	病気児童を送迎、悩み相談拠点	14
私たちの工夫		15
海外トピックス		16
短信		17
ニュースフラッシュ		18
	ファミリーホーム開設を支援/発達障害支援で基本指針/がん患者支援で協定/国負担減額「もともと間違い」/庁舎内のたばこ吸い殻をリサイクル/雑紙分別周知へ写真募集/お菓子でおもてなし条例可決 ほか	

介護の仕事

四十年来高齢者介護の仕事をしてきて、福祉とは、介護とは、専門性とは何ぞやと追究しつつ歩んできた。

オーストラリアでは医療的処置も生活支援も看護師が責任をもつて行っていたが、日本は、介護福祉士の国家資格ができ、生活の部分を担当することとなる。生活といっても掃除、洗濯、料理などの直接体に触れない部分と、排泄介助、移乗など身体介護と言われるものまで範囲が広い。

措置の時代から重度の要介護や認知症の利用者を避けずにケアしてきて介護者の力量も付いており、また介護保険になり、専門性も求められるいい時代になって、志高く頑張ってきたと思う。

社会福祉法人新生会
名誉理事長・石原美智子



しかしこのところ、いざさか心が揺らいでいる。その一つとして、看護学校があちこちにオープンすると共に、当然少子化の影響で介護福祉士の養成校が閉鎖している。生活を支える介護士のほうが多く必要なのにどうしたことだろう。

その上、看護師の養成が増えたというのに吸痰などの医療行為を介護士に求め、介護福祉士の養成校の単位にも医療行為が入ってきた。家族にでもできることだから、という理由のようだが、家族にはリスクはないが介護士にはリスクが伴う。看護学校を増やした目的は何なのだろうか。

それだけでなく利用者者の最も近くでケアに当たる介護者は、離床や移乗介助で自立支援を心掛け

るほどに転倒などのリスクも増える。かつては経験したことのないクレマーの出現もある。その上に介護保険上の書類の山が追いかけてくる。介護者にどれ程のことを要求するのだろうか。

あるべき論は幾らでも言えるが、現実には介護者が居なくなってしまうたら今後どうなるのだろうか。海外に人を求めるだけではなく、介護者に何を求めているのかを整理して示す必要がある。

間もなくまた介護保険の改定の時期が来るが、毎回何かを要求するだけではなく、今まで広がってきたものを整理して贅肉を取ったり、それぞれが有機的に機能するようにして、疲弊している現場に潤いが出ることを期待したい。

団塊の世代がいよいよ親の介護から自分自身の老後を考える時が来たのに、根っここのところの介護が脆弱なままでは心細いではないか。